

『名士列伝』写本群と『王侯の没落』写本における 運命の記述と細密画のかかわり

——FortuneとPovertyの争いに焦点をあてて——

轟 義 昭

序

筆者は嘗て『名士列伝』写本群のなかでボッカッチョの面前に出現したFortune（運命の女神）に焦点をあてて運命の記述と細密画のかかわりを分析したことがある。¹テキストの記述と「視覚言語」としての細密画（27枚）を比較検討してみると、

- 1 Fortuneが出現した瞬間を描いたもの（13枚）
- 2 Fortuneの出現とその後の対談を配慮したもの（4枚）
- 3 その後の対談を重視したもの（9枚）
- 4 その他（1枚）

に分類され、記述と画像のあいだのずれが鮮明に浮かび上がった。テキストの記述の意味が全く吟味されることなく画像が創出されているものもあるし、背景に力点が置かれて「運命の女神がボッカッチョの面前に出現する」というモチーフが自由に解釈され、テキストの記述と画像の結びつきが緩やかなものもあるし、ある構図の型を受動的に模倣していると思わせるものもあった。運命の女神の容姿とボッカッチョの様相を総合的に判断すると、

・ Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 230, folio 156

・ London, British Library, Ms. Royal 20 C IV, folio 198

の2枚は双方の素材を余すところなく取り入れて創出され、第六巻の出だしに字義通り呼応する細密画であることが判明した。今回、第三巻のFortuneとPovertyの争いに焦点をあてて運命の記述と細密画のかかわりについて分析しようと考えた。第六巻の細密画に関して言えば、細密画家たちは運命の女神とボッカッチョを共に画像の中心に据えて、双方の手の位置と仕草によって対談を暗示させる工夫を凝らしていた。確かに「本数が増加した手と腕」がないFortune像がこの場面の視覚的説明としての重責を果たしているかどうか疑問はあるが、この細密画が、第六巻の出だしの前にあることで、写本の読み手にテキストの内容を予告する役割を果たしていることは間違いない。では、第三巻の細密画はどうだろうか。特に、FortuneとPovertyの争いという「物語」を写本の読み手に前もって理解させるために、細密画家たちはどのような寓意要素を構図の拠り所とし、どのような創意工夫を凝らしているのだろうか。筆者の関心はまさに此処にある。本稿で取り扱う細密画は黒瀬（1977）² と轟（2000）³ で確認できる34枚（リドゲイトの『王侯の没落』写本が1点、ボッカッチョの『名士列伝』をロラン・ド・プルミエフェが中世フランス語に訳した写本群が33点）である【資料1】。

【資料1】『名士列伝』写本群で見出される運命の女神と貧乏女神の争いの細密画

Library & Museum	Strife between Fortune And Poverty
San Marino (California), Huntington Library Ms. HM 268	f. 43 ^{vo}
Vienna, Österreichische Nationalbibliothek Ms. S. n. 12766	f. 72 ^{vo}
Chantilly, Musée Condé Ms. 860 (401)	f. 76
Paris, Bibliothèque de l'Arsenal Ms. 5191 Ms. 5192 Ms. 5193	f. 53 ^{vo} f. 72 ^{vo} f. 88
Paris, Bibliothèque Nationale Ms. Fr. 127 Ms. Fr. 130 Ms. Fr. 131 Ms. Fr. 132 Ms. Fr. 226 Ms. Fr. 229 Ms. Fr. 230 Ms. Fr. 233 Ms. Fr. 597 Ms. Fr. 16994 Ms. Fr. 16995	f. 71 f. 88 f. 71 ^{vo} f. 42 ^{vo} f. 62 ^{vo} f. 84 f. 61 f. 65 f. 38 f. 76 ^{vo} f. 73 ^{vo}
Rouen, Bibliothèque Municipale Ms. 1440 (U. 25)	f. 67
Munich, Bayerische Staatsbibliothek Ms. Gall. 6 (=Gall. 396)	f. 81
Geneva, Bibliothèque publique et universitaire Ms. Fr. 190 Ms. Fr. 191	f. 83 f. 72
Glasgow, University Library Ms. 208 (U. 1. 12) Ms. 371 (V. 1. 8)	f. 95 ^{vo} f. 69 ^{vo}
London, British Library Ms. Add. 11696 Ms. Add. 35321 Ms. Harley 621 Ms. Loyal 14 E V Ms. Loyal 18 D VII Ms. Loyal 20 C IV	f. 71 f. 67 f. 71 f. 113 ^{vo} f. 52 f. 77 ^{vo}
Oxford, Bodleian Library Ms. Bodley 265 (2465)	f. 73 ^{vo}
Los Angeles, J. Paul Getty Museum 96. MR. 17 (Ms. 63)	f. 63
New York, Pierpoint Morgan Library Ms. G. 35 Ms. M. 342	f. 79 ^{vo} f. 77
Washington D. C., Library of Congress Rosenwald Collection No. 427	f. 63

I リドゲイト写本について

1. テクストの記述

運命の女神 (Fortune) と満足貧乏 (Glad Pouert) の争いは、ボッカッチョがナポリの学校に通っていた頃、天文学者のアンダルス先生が「王侯の没落の原因は、運命の女神の作用ではなく、己自身の罪や自堕落な生活による」ことを門下生に説くために持ち出した講話であり、テキストでは『王侯の没落』第三巻204行目から707行目までからなる。⁴ 筆者は既にこの箇所⁵の訳出を別の論文⁵で試みたことがある。ここではその概要を紹介するにとどめておこう。

たくさんの継ぎ接ぎのある衣装を纏った満足貧乏が三つの公道が交わる地点に座っていると、運命の女神が悪意に満ちた笑みを浮かべてそこを通りかかる。満足貧乏は激怒して立ち上がり、「愚か者のなかで一番愚かな運命の女神さん、何故貴女は私のことを笑うのですか。」と相手に迫る。運命の女神は「瘦せて青白く、垢まみれで不潔な貴女を見たからです。恐ろしさのあまり、子供たちも逃げ、犬だって貴女の杖に噛み付いていました。」と切り返す。これを聞いた満足貧乏は「私は自由意志によって、貴女の好意を蔑ろにし、貧しい身分に甘んじています。貴女と一戦交えましょうか。」と反駁する。すると、運命の女神はかっとなり、「乞食同然なのに、片意地張ってやせ我慢し、私に媚びようとしなは！最も残酷な方法で貴女を懲らしめ、屈服させて私の奴隷にしましょう。」と再び言い返す。満足貧乏は相手の挑発に喜んで、「貴女の好意は無常という突然の不幸で終わります。貧しい身分に甘んじていれば、貴女の変動に突然王手詰めと言えますよ。」と語る。この言葉に運命の女神は自暴自棄になり、「氣迫と度胸で私と一戦交えて、勝ち目があるとでも思っているの。」と憤慨して言う。満足貧乏は勝者が好きな掟を敗者に定めるという条件で喧嘩しようと反問すると、運命の女神はにやりとし、「我々二人の喧嘩において、誰が公正に勝負の判定を下すの。私がこの勝負に勝っても、私にとって何の誉れにも利益にもならないわ。」と言うと、相手の透きをついて頭に掴みかかり、攻撃を開始する。互いに四つに組み合うが、満足貧乏は運命の女神を高く持ち上げ、地面に強く叩き付けたかと思うと、骨張った膝で相手の心臓に一撃を与え、素早く馬乗りになって、喉元をきつく締め付ける。遂に、運命の女神は敗北を認め、「広々とした平原において、誰の目にも晒されるように、杭ないし柱に悪運 (Euel Auenture) を縛りなさい。」という満足貧乏の掟に従うことになる。

この内容を読むと、二人の争いは次のような寓意要素から構成されていることが理解されよう。(1) 満足貧乏の服は引き裂かれてぼろぼろで、たくさんの継ぎ接ぎがある、(2) 三つの公道が交わる場所に座っていた満足貧乏に運命の女神が会う場面、(3) 満足貧乏が立ち上がり、運命の女神と言い争いを始める口論の場面、(4 a) 運命の女神が満足貧乏の頭に掴み

かかり攻撃を開始する、(4b) 運命の女神と満足貧乏が四つに組み合う、(4c) 満足貧乏が運命の女神を高く持ち上げて地面に叩き付ける、(4d) 満足貧乏が膝で運命の女神の胸部に一撃を加える、(4e) 満足貧乏が馬乗りになって運命の女神の喉元を締め付ける格闘の場面、(5) 平原において悪運が杭ないし柱に縛られる掟(条件)の場面がある。

ところで、満足貧乏と運命の女神が出会う場所は三つの公道が交わる地点であるが、争いの場所に関して言えば、416行目から420行目の記述から「平原」ということが判明する。

'Thouh heer I ne haue spere, sheeld nor suerd,	私はここに槍も盾も剣も、
Nor chosen armour to stonden at diffence,	護身用の見事な甲冑も、
Pollex nor dagger to make resistance,	反撃用の短剣も戦斧も持ち合わせておらず、
But bare and naked, anon it shal be seyn,	丸腰だが、貴女の決意を直ぐに示しなさい、
Wher thou with me darest wrastlen <u>on this pleyn.</u>	<u>この平原</u> で私と組み討ちするかどうかを。

また、満足貧乏と運命の女神の対比に着目すれば、後者の衣装に関しては、281行目から285行目の記述は注目に値する。

And thouh thi clothyng be of purpil hewe,	貴女は紫衣を纏い、
With gret awaityng off many chaumbereris,	大勢の侍女に付き添われ、
Off gold & perle ech dai chaunges newe,	金や真珠細工の飾り意匠を凝らした
Clothes off gold & sondry fressh atiris,	黄金色や色鮮やかな衣装を毎日取り替え、
And in thyn houshold ful many officeris, —	貴女の館には大勢の召使いがいます、—

運命の女神は、(引き裂かれてぼろぼろで、たくさんの継ぎ接ぎのある服を着ている) 満足貧乏とは対照的に、紫色の衣装や金や真珠細工の飾り意匠を凝らした黄金色や色鮮やかな衣装を纏っている。

2. 細密画に描かれた争いの様相

San Marino (California), The Huntington Library Ms. HM 268, folio 43^o 【図1】は、筆者の知る限りでは、運命の女神と満足貧乏の争いを描いた唯一の細密画である。この構成要素は次のとおりである。

- ・十字架像のある十字路があり、地面が緑色に塗られているので、平原(草原)のようである。その路傍で二人が格闘している。一方は薄赤色の衣装を纏っている。他方は布で目隠しされ、翼を持ち、豪華な衣装を纏ってマントを羽織った(冠を付けた)女王である。

- ・その格闘シーン（中央）において、一方が片膝を押し当てて、他方を地面に押さえ付けて、左手で喉元を締め付けている。
- ・黒い衣装を纏う男性が両手を杭に縛られて、地面にすわっている（左斜め上）。
- ・二人が喧嘩を見物している（右側）。一方が左手を指さして何か言っている様子である。

ここでの問題点は、初めてこの細密画を見る写本の読み手が、薄赤色の衣装を纏った人物が誰なのか、布で目隠しされ、翼を持ち、豪華な衣装を纏ってマントを羽織った女王は誰なのか、両手を杭に縛られて地面に座っている男性は誰なのかを直ぐに特定できないことにある。第六巻の出だしのよう、細密画がテキストの内容を予告する直前にあり、同じページ（folio）にあるならば写本の読み手には画像が暗示することは理解できるだろう。⁶だが、Ms. HM 268, folio 43^oには運命の女神と満足貧乏の争いに関する記述はまだ出ない。章頭装飾大形頭文字（initiale ornée）のFで始まる文に着目すると、“Folkys that vse to make gret/visages which vndesfong/”と書かれているので、細密画は第三巻の92行目の直前にあることが判明する。読み手はfolio 44^o（テキストで言えば、197行目から203行目の連）⁷になって漸く運命の女神と満足貧乏の争いのことを知るが、寓話を最後（テキストでは644行目）⁸まで読み進めないと、この構成要素全体の意味は読み手には理解されない。これがボッカッチョの面前に出現した運命の女神の細密画との大きな相違点である。

3. テキストの記述と細密画のかかわり

Ms. HM 268, folio 43^oの細密画は、テキストの「物語」を読み解くことで、初めてその意味が理解されることになる。即ち、2節で述べた構成要素は、十字路の路傍の草原で、薄赤色の衣装を纏った満足貧乏が、豪華な衣装を纏った運命の女神に片膝を押し当てて地面に押さえ付け、左手で喉元を締め付けている。一方、争いに敗れた運命の女神が、互いに決めた条件に従って、悪運を杭に縛り付けたことを表すものであった。

では、1節で述べたテキストの寓意要素と細密画のかかわりを検討してみたい。満足貧乏の衣服は薄紫色であり、引き裂かれてぼろぼろで、たくさんの継ぎ接ぎはないが、運命の女神の衣装との対照性は認められる。道は三つの公道ではなく、十字路である。そこに満足貧乏は座っていないので、出会いの場面はない。満足貧乏が立ち上がって、運命の女神と言い争う口論の場面はない。運命の女神が満足貧乏の頭に掴みかかり攻撃を開始したり、四つに組み合ったり、高く持ち上げて地面に叩き付ける格闘場面はない。満足貧乏が左膝で運命の女神に一撃を与え、馬乗りになって左手で喉元を締め付ける格闘場面はあるが、その一撃は彼女の胸部ではなく腹部である。格闘の場所は平原（草原）であり、その平原の杭に悪運が縄で縛られているので、掟（条件）の場面はある。

以上の分析によって、細密画は格闘場面と条件の2つの要素から構成されていることが判明

する。テキストの記述と細密画のかかわりが明確になるように図で表すと次のようになる。

構成要素 写本	場所	Poverty の衣装	出会い	口論	格 闘					条件
	三つ又の公道 平原	1	2	3	4 a	4 b	4 c	4 d	4 e	5
Ms. HM 268	△	×	×	×	×	×	×	△	○	○

注：1～5は1節（pp.21-22）を参照

* 場所が「三つ又の公道」ではなく「十字路」なので△を付した。

* 格闘場面において、貧乏女神が運命の女神に加える一撃が「胸部」ではなく「腹部」なので△を付した。

『名士列伝』写本（中世フランス語訳）について

1. テキストの記述

『王侯の没落』第三巻における運命の女神と満足貧乏の争いは「出会い」「口論」「格闘」「掟（条件）」から構成されていたので、先ず、その構成要素に相当する中世フランス語訳の箇所を抜粋して、類似点と相違点を検討したい。なお、ロラン・ド・プルミエフェによって中世フランス語に翻訳された『名士列伝』については、Henry BergenがEETS版（E.S.124）に注釈として用いたものに基づいている。

出会いと口論の場面

Pourete daenture se seoit au bout dung chemin fourchu en trois sentiers et estoyt affublee dune coste pertuisee en cent lieux / elle auoit les sourcilz rebourciez comme elle a de coustume et bien sembloit Femme melencolieuse et pensive a plusieurs choses. Or aduint que a celle mesme heure fortune qui par illec passoyt getta ses yeulx en regardant pourete Et enriant passoit outre son chemin / Adonc pourete se leua contre fortune / Et luy monstra moult rude et aspre chiere en disant telles parolles.⁹

（貧乏女神が三つ又の道の傍らに腰を降ろしていました。彼女は百の穴の開いた衣装を身に纏い、いつものように眉をひそめ、諸々の出来事を憂い、物思いに耽る女性のような様子でした。たまたま同じ頃、運命の女神がそこを通りかかり、彼女に視線を投げかけ、あざ笑いながら通り過ぎました。すると貧乏女神は彼女に敵対して立ち上がり、厳しい苦々しい顔つきをして、次のように語りました。）

格闘の場面

Adonc Fortune se eslance en courant sus a pourete / affin quelle luy mist la main

sur sa teste et quelle labbatist iusques au milieu de la terre/ mais pourete comme apperte et despechee des membres print et embrassa fortune a bon bras et la tourna et reuira longuement en lair/ tant que pour la graisse delle celle fut estourdye & finalement elle fut acrauantee et cheut tout pasmee a terre. Pourete doncques qui eust le genoil agu foulla la poictrine de fortune/ et luy mist lung de ses piedz sur sa gorge et luy serra forment. Pourete se porta si vigoureusement quelle ne laissa fortune reprendre son alaine...Après celle luycte pourete qui eust desconfit Fortune se leua en piedz/ et par courtoysie elle souffrit que Fortune se reposast vng peu/ et puis luy dist.¹⁰

(その時、運命の女神は貧乏女神に向かって急に突進しました。相手の頭に手を置いて、大地の真ん中でさへも相手を打ち負かすためでした。しかし、貧乏女神は、手足をばらばらに粉碎するかのように、運命の女神を両腕でしっかりと握り、長い間空中で回転させていました。それで、彼女は肥満のせいで目が回り、挙げ句の果て、放り投げられ、地面に落とされて、すっかり気絶していました。その後すぐ、貧乏女神は骨張った膝で運命の女神の胸部を圧迫し、足の一方で彼女の喉元を強く締め付けました。貧乏女神は運命の女神に呼吸を整えさせないほど激しく行いました。…その争いで運命の女神を打ち負かした後、貧乏女神は立ち上がり、彼女を思いやって少し休息をとらせ、それから次のように語りました。)

掟（条件）の場面

mais ie ay pitie et mercy de toy: et vueil seullement que tu gardes la loy telle comme ie la mectray. Car puisque il a semble a la folle oppinion des poetes & philosophes anciens que les dieux ayent mys en ta franche volente le bonheur et le malheur. Ie vueil oster la moytie de ta seigneurie qui me semble si grant que plus ne pourroit estre/ si te commande fortune que en aulcum lieu publicque et tel que chascun puyse veoir tu lyes et attaches malheura vne coulonne/ ou a vng fort pieu/ affin que doresen[a]uant malheur ne puyse entrer en lhostel de quelconque personne...¹¹

(しかし、私には貴女に対して憐れみと慈悲の心があります。貴女は私が課す掟を守ってくれさえすればいいのです。というのは、詩人や古代哲学者の誤った見解により、神々が貴女の気まぐれによって幸せと不幸せを分け与えると思われているからです。私は貴女から半分の支配権を奪おうと思います。運命の女神さん、貴女に次のことを命じます。誰もが見ることのできる公の場所において、悪運を柱ないし頑丈な杭に縛りなさい。そうすれば、それ以後、悪運はどんな人々の館にも出入りすることができなくなります。)

貧乏女神 (Pourete) の衣装は、『王侯の没落』に描かれた満足貧乏の衣装とは異なる。彼女は百の穴のあいた服 (coste pertuisee en cent lieux) を着ている。「百の穴」は、運命の女神の百本の手と腕 (cent mains et autretant de bras)¹² のように、誇張の技法 (hyperbole) であるにせよ、たくさんの穴が衣服にあることが特徴である。

出会いと口論の場面は同じで、運命の女神が三つ又の道の傍らに座っていた貧乏女神に出会ってあざ笑うので、貧乏女神は立ち上がって相手と言い争いを始めている。

格闘の場面において、貧乏女神が運命の女神の手足をばらばらに粉砕するかのようになり、両腕でしっかりと握る (pourete comme apperte et despechee des membres print et embrassa fortune a bon bras et la tourna) 行為は「四つに組み合う」行為と同等と思われるが、他の要素は多少の違いが認められる。運命の女神が貧乏女神の頭に手を置く (mist la main sur sa teste) 行為は「頭に掴み」かかる満足貧乏の行為よりも穏やかであるが、貧乏女神が運命の女神を空中で回転させる (la tourna et reuira longuement en lair) 行為は満足貧乏の「空高く持ち上げる」行為よりも激しいので、運命の女神は地面に落とされて気絶する (pasmee) ののである。運命の女神が地面に倒された後と比較すると、満足貧乏は「骨張った膝で運命の女神の胸部に一撃を与える」のに対し、貧乏女神は骨張った膝で運命の女神の胸部を圧迫 (foulla la poitrine de fortune) している。また、運命の女神の「喉元を締め付ける」行為は同じであるが、満足貧乏は「馬乗りになって」行っているため、手で喉元を締め付けているように考えられるが、貧乏女神は足の一方を置いて (luy mist lung de ses piedz) 喉元を締め付けている。

掟 (条件) において、悪運が柱ないし杭に縛られるのは同じであるが、縛られる場所の違いがある。Euel Auentureが縛られるのは「広々とした平原」であるのに対して、malheurは誰もが見ることのできる公の場所 (en aulcum lieu publicque et tel que chascun puyse veoir) である。

第1章1節において、争いの場所と運命の女神の衣装についても言及したので、双方の要素に関する箇所を抜粋して比較検討しよう。

Et pourete promptement respondist a fortune le nay escu ne lance ne heaulme ne haulbergon ne cheual pour combatre avec toy. Mais se tu veulx ie v[i]en[d]ray vuyde et despechee et a pied ie luycteray sur terre plaine.¹³

(大意：貧乏女神は直ぐに運命の女神に返答しました。私は貴女と戦うための盾も槍も甲も鉾槍も馬も持っていません。しかし、貴女は私が丸腰で急いで歩いてやって来て、平坦な大地で格闘することを望んでいます。)

Et ia soyt que tu ayes la coulleur vermeille et riche robe de pourpre et grant

troppeau de chambrières…¹⁴

(貴女は鮮紅色の色，赤紫色の豪華なドレス，大勢の侍女をお持ちですが，)

『王侯の没落』において争いの場所は「平原」(pleyn: III.420)であったが，ここでは平坦な大地 (terre plaine) である。‘plaine’ には名詞で「平原」の意味もあるが，‘sur terre plaine’ という語句の ‘terre’ が「大地，地面」という意味なので，‘plaine’ は「平らな，平坦な」を表す形容詞ということになる。リドゲイトが419行目の ‘seyn’ との脚韻を踏むために ‘on this pleyn’ と改めたことになる。他方，運命の女神の衣装に関しては，「金や真珠細工の飾り意匠を凝らした」衣装ではないが，赤紫色の豪華なドレス (riche robe de pourpre) であり，貧乏女神の百の穴がある衣装と対比は認められる。

以上の分析に基づいて，『名士列伝』(中世フランス語訳)と『王侯の没落』の類似点と相違点が明確になるように図で表すと次のようになる。

『名士列伝』(中世フランス語訳)	『王侯の没落』
貧乏女神の衣装 1 貧乏女神は百の穴のあいた服を着ている	満足貧乏の衣装 1 満足貧乏は引き裂かれてぼろぼろで，たくさん <small>くさん</small> の継ぎ接ぎのある服を着ている
出会い 2 貧乏女神は三つ又の道の傍らに座っている	出会い 2 満足貧乏は三つの公道が交わる場所に座っている
口論 3 貧乏女神は立ち上がり，運命の女神と言 <small>い</small> 争いを始める	口論 3 満足貧乏は立ち上がり，運命の女神と言 <small>い</small> 争いを始める
格闘 4 a 運命の女神は貧乏女神の頭に手を置いて攻撃を開始する 4 b 貧乏女神は運命の女神を両腕でしっかりと握る 4 c 運命の女神は長い間空中で回されて放り投げられる 4 d 貧乏女神は膝で運命の女神の胸部を圧迫する 4 e 貧乏女神は足の一方で運命の女神の喉元を締め付ける	格闘 4 a 運命の女神は満足貧乏の頭に掴みかかり攻撃を開始する 4 b 運命の女神と満足貧乏は四つに組み合う 4 c 満足貧乏は運命の女神を高く持ち上げて地面に叩き付ける 4 d 満足貧乏は膝で運命の女神の胸部に一撃を与える 4 e 満足貧乏は馬乗りになって運命の女神の喉元を締め付ける
掟(条件) 5 誰もが見られる公の場所に杭ないし柱に悪運を縛る	掟(条件) 5 誰の目にも晒されるように，平原において杭ないし柱に悪運を縛る

2. 細密画に描かれた争いの様相

ブルミエフェによって中世フランス語に翻訳された写本群に出る33点の細密画について，その細密画が何処にあるのかという問題及び運命の女神と貧乏女神の争いの「物語」を読む前に読み手はその細密画をどの程度解読できていたのかという問題について確認しておきたい。そ

の上で、それぞれの構成要素を分析したい。

2.1 細密画のある位置

中世フランス語訳写本を調査すると、33写本のなかで24写本において、スペルの違いはあるものの、細密画の下には章頭装飾大形頭文字のPで始まる“Pelerins et autres voyageurs”（巡礼者たちと他の旅行者たち）の記述がある。この記述は、『王侯の没落』のテキスト（EET S版）の編者Henry Bergenが指摘する“Ⅲ.1-7 are taken directly from Laurence and Bochas, the same passage is continued from 92 to the end of the Prologue. Lines 8-91 are pure Lydgate”¹⁵を考慮すると、1行目の“LIK a pilgrym which that goth on foot”のような記述と92-93行目の“Folkis that vse to make grete visages, / Which vndirfonge long trauaile & labour”のような記述に相当するので、細密画はプロローグの最初にあると考えられる。取り分け、Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 132, f. 42^{vo}の細密画は“Cy commence tiers liure de bocace et premierement le prologue”（ここでボッカッチョの第三巻が始まる。先ずプロローグ）の記述の上にあるので、筆者の推測を補強してくれる。

2.2 細密画の解読の度合い

細密画がプロローグの最初にあるとなると、第1章1節で指摘したように、その内容を予告する記述が直後あるいは同じページ（folio）になれば、画像を見ただけでは、その主題内容が直ぐに写本の読み手に理解されなかったことだろう。調査の結果、33点の細密画には解読の度合いに差があることがわかった。

（1）細密画に記された文字情報に基づく解読

Chantilly, Musée Condé, Ms. 860 (401), f. 76, Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 233, f. 65, New York, Pierpont Morgan Library, Ms. G. 35, f. 79^{vo}の3枚の細密画には運命の女神と貧乏女神および悪運の「銘」が記されているので、画像の意味は分かりやすい。特に、Ms. 860 (401)の細密画【図5】は争いの勝者と敗者が明確である。Ms. G. 35, f. 79^{vo}【図6】において争いは貧乏女神が優勢であることは認識できるが、何故運命の女神が男性（悪運）を縛っているのかについては画像からだけでは判断できない。

Chantilly, Musée Condé, Ms. 860 (401), f. 76

- ・ 衣装が対照的で、貧乏女神は巡礼者ふうで継ぎ接ぎの襤褸を纏っているが、運命の女神は豪華な衣装で赤いマントを羽織っている。
- ・ 遠方の背景には十字架像のある三つ又の公道がある。平原（草原）の平らな大地で運命の女神と貧乏女神が格闘しており（右下）、貧乏女神が左膝で運命の女神の胸部を圧迫して地面に押さえ付けようとしている。

- ・運命の女神自身が杭に（縄で喉元を）縛られている。おそらく貧乏女神に縛られたのであろう。二人は手を話す身振りに持ち上げて何か和解の条件を確認しあっているように見える。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 233, f. 65

- ・衣装が対照的で、貧乏女神は継ぎのある襤褸を纏っているが、運命の女神は豪華な衣装を纏っている。
- ・十字架像のある三つ又の公道で運命の女神と貧乏女神が格闘しており（中央）、貧乏女神が地面に倒れた運命の女神の上に乗る、右膝で腹部を圧迫し、左手で喉元を締め付け、右手の拳で殴ろうとしている。

New York, Pierpont Morgan Library, Ms. G. 35, f. 79^o

- ・衣装が対照的で、貧乏女神は多少の破れと継ぎのある黒い服を纏っているが、（二つの顔を持つ）運命の女神は豪華な衣装を纏っている。
- ・十字架像のある公道で、運命の女神が左手を貧乏女神の肩に置いて今にも争おうとしている（中央）。
- ・貧乏女神が運命の女神の上に乗って、地面に押さえ付け、左手で喉元を締め付け、右手に持った杖も攻撃に活用しているようである（左下）。
- ・小高い丘において、運命の女神が腰に布を巻いただけの悪運の両手を後ろで組ませて杭に縛っている（左側）。

(2) 細密画の直後の記述に基づく解説

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 131, f. 71^o; Ms. Fr. 226, f. 62^o; Ms. Fr. 16994, f. 76^o; London, British Library, Ms. Royal 18 D VII, f. 52; Ms. Royal 20 C IV, f. 77^o; Oxford, Bodleian Library, Ms. Bodley 265 (2465), f. 73^o; Los Angeles, J. Paul Getty Museum, 96. MR. 17 (Ms. 63), f. 63; New York, Pierpont Morgan Library, Ms. M. 342, f. 77の8枚には細密画の直後に、スペルの違いはあるが、朱文字で“Le premier chapitre du tiers livre contient le debat de pouvete et fortune”（第三巻の第一章は運命の女神と貧乏女神の争いを含む）と記され、またParis, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 16995, f. 73^o; Geneva, Bibliothèque publique et universitaire, Ms. Fr. 191, f. 72の2枚には“Le premier chapitre contient le debat de pouvete et fortune”と、前者は朱文字で、後者はLの章頭装飾大形頭文字で記されているので、読み手にはその細密画が運命の女神と貧乏女神（画像から判断すれば、後者は男性の貧乏神）の争いを表すものであることは前もって理解できる。ここで着目すべきは、衣装の対照性、王冠の有無、車輪の存在である。この素材によって、どちらが運命の女神でどちらが貧乏女神かを特定できたことだろう。このなかで、白髪で白髭の老人が両手で車輪を回している婦人（運命の女

神)に左人差し指を向けているMs. Fr. 16995, f. 73^oは「争い」というイメージからはほど遠い。Ms. M. 342, f. 77は十字路で二人が向き合い、その後方の格闘場面から、争いにおいて一方(貧乏女神)が優勢であることは認識できる。Ms. Fr. 131, f. 71^o【図3】; Ms. Royal 18 D VII, f. 52【図4】; Ms. Bodley 265 (2465), f. 73^oの3枚は、格闘の後、女王が他方(貧乏女神)によって杭に縛られているので、争いの勝敗がつき、貧乏女神が勝者になると推測できたことだろう。同様に、衣装の対照性と冠の有無から、Ms. Royal 20 C IV, f. 77^oとMs. Fr. 16994, f. 76^oの2枚において、格闘では貧乏女神が優勢であると認識できるが、何故男性が両手を杭に縛られて座っているのかが画像の構図だけでは推測できなかっただろう。興味深いものは、地面に固定された(四人の人像を配した)車輪があるMs. Fr. 191, f. 72である。争いでは運命の女神が劣勢であるにもかかわらず、彼女が男性を杭に縛っているの、彼女が勝者のように誤解されたかもしれない。96. MR. 17 (Ms. 63), f. 63とMs. Fr. 226, f. 62^oの2枚においては、双方が両手でしっかりと握って組み合い、争っていることは認識できるが、どちらが勝者なのかは判断できないし、何故男性が両手を杭に縛られて裸で座っているのか、何故髭を生やした男性が立って争いを見ているのかについても、画像の構図だけでは推測できない。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 16995, f. 73^o

- ・衣装が対照的で、白髪で白い顎髭を蓄えた老人は穴のあいたみすぼらしい服を着ているが、婦人(運命の女神)は紺色の衣装を纏っている。
- ・背景が細工模様の草原において、老人が松葉杖をついて(地面に固定された)車輪を両手で回している婦人に近づき、左人差し指を彼女に向けて何か議論している。

New York, Pierpont Morgan Library, Ms. M. 342, f. 77

- ・衣装が対照的で、一方(貧乏女神)は穴のあいた襤褸を纏っているが、他方(運命の女神)は豪華な衣装を纏っている。
- ・十字架像のある十字路において、運命の女神が杖をついて立っている(あるいは立ち上がった)貧乏女神に左人差し指を向けて何か言おうとしている(中央)。
- ・貧乏女神が地面に倒れた運命の女神の上に馬乗りになり、両手で彼女の左手首を締め上げている(右斜め上)。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 131, f. 71^o

- ・衣装が対照的で、一方(貧乏神)は穴のあいた赤色の襤褸を着ているが、他方は豪華な衣装を纏って青いマントを羽織った女王(運命の女神)である。
- ・十字架像のある十字路があり、その傍らの平らな草原において、男性(貧乏神)が女王の下半身を踏みつけて、両手で彼女を地面に押さえ付けようとしている(左下)。
- ・男性が縄で女王の両手を前で縛った後、腰元を杭に縛り付けている(右側)。

London, British Library, Ms. Royal 18 D VII, f. 52

- ・衣装が対照的で、一方（貧乏神）は穴のあいた薄茶色の襦袢を着ているが、他方は豪華な衣装を纏って青いマントを羽織った女王（運命の女神）である。
- ・十字架像のある十字路があり、その傍らの平らな草原において、男性（貧乏神）が女王の下半身を踏みつけて、両手で彼女を地面に押さえ付けようとしている（左下）。
- ・男性が縄で女王の両手を前で縛った後、腰元を杭に縛り付けている（右側）。

Oxford, Bodleian Library, Ms. Bodley 265 (2465), f. 73^o

- ・衣装が対照的で、一方（貧乏神）は穴のあいた赤茶色の襦袢を着ているが、他方は豪華な衣装を纏って青いマントを羽織った女王（運命の女神）である。
- ・十字架像のある十字路があり、その傍らの平らな草原において、男性（貧乏神）が女王の下半身を踏みつけて、両手で彼女を地面に押さえ付けようとしている（左下）。
- ・男性が縄で女王の両手を前で縛った後、腰元を杭に縛り付けている（右側）。

London, British Library, Ms. Royal 20 C IV, f. 77^o

- ・衣装が対照的で、一方（貧乏女神）はみすばらしい茶色の服を着ているが、他方は豪華な青色の衣装で赤いマントを羽織った女王（運命の女神）で、背中に黄金色の翼があり、布で目隠しされている。
- ・十字架像のある十字路があり、その傍らの平らな草原において、髪の長い女性（貧乏女神）が倒れた女王の上に乗る、左膝で胸部を圧迫し、左手で喉元を締め付けている（中央）。
- ・黒い服を着た顎髭の男性が両手を前で杭に縛られ、片膝を立てて地面に座っている（左後ろ）。
- ・数名が争いを見物している（右側）。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 16994, f. 76^o

- ・衣装が対照的で、一方（貧乏女神）はみすばらしい灰色の（穴が一つあいた）服を着ているが、他方は豪華な青色の衣装で赤いマントを羽織った女王（運命の女神）で、背中に黄金色の翼がある。
- ・十字架像のある十字路があり、その傍らの平らな草原において、髪の長い女性（貧乏女神）が倒れた女王の上に乗る、腹部を右膝で圧迫し、右手で喉元を締め付けている（中央）。
- ・茶色の服を着た顎髭の男性が両手両足を杭に縛られて地面に座っている（左後ろ）。
- ・二人の見物人が争いをけしかけている（右側）。

Geneva, Bibliothèque publique et universitaire, Ms. Fr. 191, f. 72

- ・衣装が対照的で、一方（貧乏女神）は穴のあいた白っぽい襦袢を着ているが、他方は豪華な衣装で青いマントを羽織った女王（運命の女神）である。
- ・路上の平坦な地面において、長い髪の女性（貧乏女神）が倒れた女王の上に乗る、左膝

で腹部を圧迫し、右手で長い髪の毛を引っ張り、右足裏を喉元に置いて締め上げている(中央)。

- ・運命の女神が腰に剣を吊した白っぽい服を着た男性を縄で杭に縛っている(右側)。
- ・数名が争いを見物している(左側)。
- ・女王の傍らに地面に固定された(四人の人像を配した)車輪がある(左側)。

Los Angeles, J. Paul Getty Museum, 96. MR. 17 (Ms. 63), f. 63

- ・一方(貧乏女神)は薄紫の服を着ているが、他方は赤色の衣装を纏い、緑の翼がある女王(運命の女神)である。
- ・平坦な草原において、二人が四つに組んでいる(左側)。
- ・上半身が裸の男性が両手両足を杭に縛られて地面に座っている(中央上)。
- ・書物を手に抱えた男性が争いを見物している(右側)。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 226, f. 62^o

- ・衣装が対照的で、一方(貧乏女神)は穴のあいた赤茶色の襦袢を着ているが、他方は豪華な衣装を纏い、白い翼がある女王(運命の女神)である。
- ・背景が細工模様による草原において、二人は組み合せて、貧乏女神が右足をかけて運命の女神を倒そうとしている(左側)。
- ・顎髭の男性が両手を杭に縛られて立っている(右側)。

(3) 細密画に記された文字情報と細密画の直後の記述に基づく解説

Washington D.C., Library of Congress, Rosenwald Collection No. 427, f. 63とParis, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 230, f. 61の2枚の細密画を見ると、前者の細密画のなかには運命の女神と貧乏女神の「銘」があるだけでなく、その直後に“Le premier chapitre du tiers livre contient le debat de pourete et fortune”(第三巻の第一章は運命の女神と貧乏女神の争いを含む)と記されている。後者の細密画のなかには運命の女神と貧乏女神、アンダルス先生とボッカッチョの「銘」があるだけでなく、その直後に朱文字で“Le premier chapitre contient le debat de pourete et fortune”と記されている。この2枚は、上述の細密画よりも、細密画を解説する情報が十分与えられているので、読み手に運命の女神と貧乏女神の争いの画像であると想像させるが、双方とも手の仕草で口論している様相が中心で、格闘場面がないので、争いとは「言い争い」という印象しか与えない。

Washington D.C., Library of Congress, Rosenwald Collection No. 427, f. 63

- ・衣装が対照的で、貧乏女神はたくさんの穴のあいた襦袢の服を着ているが、運命の女神は豪華な衣装を纏っている。
- ・三つ又の公道において、侍女二人を従えて散歩していた運命の女神が道に座っていた貧乏女神に出会う。貧乏女神は運命の女神を見上げて左手を指さし、運命の女神は両手を

話す身振りに持ち上げて何か口論している様子である（中央）。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 230, f. 61

- ・衣装が対照的で、貧乏女神はたくさんの継ぎ接ぎのある服を着ているが、（布で目隠しされた）運命の女神は青色と白色からなる豪華な衣装を纏い、マントを羽織った女王である。
- ・建物の一室において、運命の女神と貧乏女神が向き合い、両手を話す身振りに持ち上げて言い争っている（右側）。その左側ではアンダルス先生とボッカッチョが双方の言い争いに指をさして議論している。

（４）細密画だけに基づく解説

残り18枚の細密画のなかで、Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 130, f. 88 ; Munich, Bayerische Staatsbibliothek, Ms. Gall. 6 (= Gall. 396), f. 81 ; Rouen, Bibliothèque Municipale, Ms. 1440 (U. 25), f. 67の3枚には「車輪」が描かれている。取り分け、Ms. Gall. 6においては、folio 4に運命の女神が車輪を回している細密画があるので、これと関連付けて、f. 81の構図は運命の女神と襦袢を着た女性の争いで、運命の女神が勝負に負けるという事実を読み手は知る。同様に、Ms. Fr. 130, f. 1との関連から、f. 88は運命の女神が巡礼者風の男性に道で出会い、声をかけて呼び止めようとしている状況であると理解できる。また、Ms. 1440, f. 67の構図において、車輪が「運命の車輪」だと認識できる読み手は、運命の女神と襦袢を着た女性の争いで、運命の女神が劣勢であると認識できる。

Paris, Bibliothèque de l'Arsenal, Ms. 5191, f. 53^o ; Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 132, f. 42^o 【図2】 ; London, British Library, Ms. Add. 11696, f. 71の3枚は、二人の格闘の後、相手によって貴婦人が杭に縛られる構図を取っているため、勝敗の行方だけは明らかである。その他12枚を見ると、草原において二人が四つに組み合っている様子、一方が他方を地面に押さえ付けようとしている様子、男性が杭に縛られている様子などがあるが、構成要素が特定できないので、一瞥しただけでは、画像が表す意味を解読するのは難しい。

Glasgow, University Library, Ms. 208 (U. 1. 12), f. 95^o ; London, British Library, Ms. Add. 35321, f. 67 ; British Library, Ms. Harley 621, f. 71 ; British Library, Ms. Add. 11696, f. 71の4枚には、二人の格闘のほかに、建物の一室で先生が門下生に対して講義している様子が背景として加えられている。講義の様子が格闘と関連性があるのかどうかについては、画像からだけでは判断できない。

Munich, Bayerische Staatsbibliothek, Ms. Gall. 6 (= Gall. 396), f. 81

- ・衣装が対照的で、一方は穴のあいた薄茶色の襦袢を着ているが、他方は金色の衣装を纏っ

た女王である。地面に固定された（四人の人像を配した）車輪があるので、この要素から、女王が運命の女神とわかる。

- ・（大勢の巡礼者が木陰で休息して湧き水が飲めるような）草原において、みすぼらしい女性が右手で女王の冠を掴み、左手で腰を掴んで地面に倒そうとしている（右側）。
- ・女性が女王（運命の女神）を杭に縛っている（真ん中）。

Rouen, Bibliothèque Municipale, Ms. 1440 (U. 25), f. 67

- ・衣装が対照的で、一方は穴のあいた灰色の衣装を纏い、他方は赤い衣装を纏っている。地面に固定された車輪があるので、この要素から、赤い衣装を纏った女性が運命の女神とわかる。
- ・草原において、一方が地面に倒れた女性（運命の女神）の腹部を右足で押さえ付けている（中央）。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 130, f. 88

- ・衣装の豪華さでは二人の対照性は認められない。一方は青い衣装を着た巡礼者風の顎髭のある男性で、他方は左半分が赤色、右半分が黒色の衣装を着た女性である。その女性は布で目隠しされ、左右の顔の色が衣装と同様に異なっている。
- ・ごつごつした石が散在する道において、大きな車輪を右手に携えた女性（運命の女神）の前を、男性が無視して通り過ぎたので、黒い左手を上げて何か話しかけようとしている（中央）。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 229, f. 84

- ・衣装が対照的で、一方は穴のあいた薄茶色の襦袢を着ているが、他方は右半分が派手で左半分が継ぎ接ぎのある襦袢を纏っている。
- ・草原において二人が四つに組み合っている（中央）。

Geneva, Bibliothèque publique et universitaire, Ms. Fr. 190, f. 83

- ・衣装が対照的で、一方は汚れた服を着た男性で、他方は青い衣装を纏い、布で目隠しされ、赤い翼を持つ女王である。
- ・草原において女王と男性が四つに組み合っている（中央）。

London, British Library, Ms. Royal 14 E V, f. 113^o

- ・衣装が対照的で、一方は襦袢を着た顎髭のある男性で、他方は豪華な衣装を纏った女性である。
- ・平原において男性と女性が四つに組んでいる（中央）。
- ・両者の周りには大勢の見物人がいる。

Vienna, Österreichische Nationalbibliothek, Ms. S. n. 12766, f. 72^o

- ・白黒写真により、衣装の対照性は不明。ただし、一方の服には継ぎ接ぎが見られる。
- ・草原において、襦袢を着た女性と翼を持った女王が組み合い、前者が右膝で後者に蹴り

を入れている（左側）。

- ・裸体で顎髭のある男性が両手を杭に縛られて地面に座っている（右斜め後ろ）。

Paris, Bibliothèque de l'Arsenal, Ms. 5193, f. 88

- ・衣装が対照的で、一方は継ぎ接ぎと穴のあいた服を着た女性で、他方は青い衣装を纏い、黄金色の翼を持つ女王である。
- ・草原において女性と女王が四つに組んでいる（左側）。
- ・裸体で顎髭のある男性が両手を杭に縛られて地面に座っている（右側）。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 597, f. 38

- ・衣装が対照的で、一方はたくさんの穴のあいた茶色い服を着た女性で、他方は豪華な衣装を纏った（二つの顔を持つ）女王である。
- ・背景にも力点が置かれ、城に通じる三つ又の公道において、女性が地面に倒れた女王の上に乗る、左手で頭を押さえ付け、左膝で相手の喉元を締め付けている（左下）。
- ・女王が両手で前を隠す素っ裸の男性を杭に縛っている（左下）。

Glasgow, University Library, Ms. 371(V. 1. 8), f. 69^o

- ・衣装が対照的で、一方は穴のあいた襦袢を着た女性で、他方は豪華な衣装を纏った貴婦人である。
- ・十字架像のある三つ又の公道において女性が地面に倒れた貴婦人の上に乗る、左膝で胸部を圧迫し、左手で喉元を締め付けている（右下）。
- ・貴婦人が白い襦袢を纏う男性を杭に縛っている（左側）。

Paris, Bibliothèque de l'Arsenal, Ms. 5191, f. 53^o

- ・衣装が対照的で、一方は穴のあいた黒っぽい襦袢を着た男性で、他方は豪華な衣装で、青いマントを羽織った女王である。
- ・十字架像のある十字路において男性が左手で女王の首根っこを掴み、地面に倒して、左膝で腹部に蹴りを入れようとしている（左下）。
- ・男性が縄で女王の両手を前で縛った後、腰元を杭に縛り付けている（右側）。

Paris, Bibliothèque de l'Arsenal, Ms. 5192, f. 72^o

- ・衣装が対照的で、一方は穴のあいた黒っぽい襦袢を着た女性で、他方は赤い衣装を着た貴婦人である。
- ・小高い山の山肌において女性が地面に倒れた貴婦人の腹部に右膝で圧迫し、右手を振りかざして殴ろうとしている（前方中央）。
- ・貴婦人が「悪運」を意味する文字が記された二枚の銘帯を杭に貼っている（上）。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 127, f. 71

- ・衣装からは二人の対照性は認められない。
- ・ごつごつとした石が散在する曲がりくねった道において、貴婦人が地面に座っていた女

性に出会い、左人差し指を向けて口論している（左側）。

- ・女性が地面に倒れた貴婦人の腹部を右膝で圧迫している（前方）。
- ・貴婦人が、女性の前で、「悪運」を意味する文字が記された銘帯を二本の杭に貼っている（右後ろ）。
- ・建物の中ではある人物が書物を前にして座っている（左隅）。

Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 132, f. 42^{vo}

- ・衣装が対照的で、一方が薄紫の衣装を着た巡礼者風の女性で、他方が赤い衣装を纏った貴婦人である。
- ・ごつごつとした石が散在する三つ又の公道において、貴婦人が地面に座っている女性に右人差し指を向けて口論している（右上）。
- ・女性と貴婦人が四つに組み合っている（前方）。
- ・女性が貴婦人の両手を縄で木の幹に縛っている（左上）。

Glasgow, University Library, Ms. 208 (U. 1. 12), f. 95^{vo}

- ・衣装が対照的で、一方が穴のあいた茶色い襦袢を着た女性で、他方が赤い衣装を纏った貴婦人である。
- ・一本道において、女性が地面に倒れた貴婦人の上に乗る、両手で胸元を押さえ付け、左膝で腹部を圧迫している（前方）。
- ・建物の一室で先生が7名の門下生に講義している（後方）。

London, British Library, Ms. Add. 35321, f. 67

- ・衣装が対照的で、一方が穴のあいた茶色い襦袢を着た女性で、他方が赤い衣装を纏った貴婦人である。
- ・城壁に囲まれた町の外にある山肌において、女性が地面に倒れた貴婦人の上に乗る、両手で胸元を押さえ付け、左膝で腹部を圧迫している（右下）。
- ・建物の一室で先生が8名の門下生に講義している（左上）。

London, British Library, Ms. Harley 621, f. 71

- ・色彩からは衣装の対照は認められない。一方は継ぎ接ぎのある衣装を着た巡礼者風の女性である。
- ・町に通じる一本道において、女性が地面に倒れた女性の上に乗る、右手で喉元を締め付け、左膝で腹部を圧迫している（前方）。
- ・建物の一室で先生が3名の門下生に講義している（後方）。

London, British Library, Ms. Add. 11696, f. 71

- ・衣装の色彩が対照的である。一方は黒い衣装を着た女性で、他方は赤い衣装を着た女性である。
- ・小川の岸辺の一本道において、黒い服の女性が倒れた赤い服の女性の上に乗る、右膝で

腹部を圧迫し、右手の拳を振り上げて打ち付けようとしている（右下）。

- ・黒い服の女性が赤い服の女性を杭に縛り付けている（右上）。
- ・建物のなかでは、先生が話す身振りに両手を持ち上げ、6名の（立っている）門下生に講義している（左側）。

2.3 細密画の構成要素の分類

前節では細密画の中に記された文字情報と細密画の直後の記述が有るか無いかによって、「物語」を読んでいない段階では、細密画の解説の度合いが異なることを指摘した。ここでは、「先生の講義の場面」「出会いと口論の場面」「格闘の場面」「杭との関わりをもつ場面」の4つの要素のなかで、細密画がどのような場面から構成されているかを明確にしておきたい（表1を参照）。

表1によると、「格闘の場面」は、33例のうち29例に取り上げられ、中心的な構成要素である。特に、膝での攻撃が目立つ。場面構成としては2つが多い。その中で、格闘場面と杭との関わり場面構成が33例のうちで20例も見られる。興味深い点は、Ms. 5191, Ms. Fr. 131, Ms. Royal 18 D VII, Ms. Bodley 265の4枚は構図がほぼ同じであるのに、Ms. 5191だけは「物語」を読む前に男性と女王が争った結果、女王が負けて杭に縛られているとしか想像されないことである。また、Ms. 860とMs. Gall. 6の2枚においては、運命の女神と貧乏女神が争った結果、勝敗が決定し、運命の女神が負けて杭に縛られていると推測できる。

表1 細密画における構成要素の一覧と場面構成の数

写本	構成要素	先生の講義	出合い	口論	格闘			杭に縛られた/貼られた			場面構成
					四つに組む	膝での攻撃	喉元へ攻撃	男性	女性	銘帯	
Rosenwald No.427			○	○							1つ
Ms.Fr.130			○								
Ms.Fr.16995				○							
Ms.M.342				○		○					2つ
Ms.Fr.229					○						1つ
Ms.Fr.190					○						
Ms.Royal 14EV					○						
Ms.Fr.233						○	○				
Ms.1440						○					
96.MR.17(Ms.63)					○			○			2つ
Ms.S.n.12766					○	○		○			
Ms.5193					○			○			
Ms.Fr.226					○			○			
Ms.Fr.597						○	○	○			
Ms.Fr.16994						○	○	○			
Ms.Fr.191						○	○	○			
Ms.371						○	○	○			
Ms.Royal 20CIV						○	○	○			
Ms.Gall.6					○				◎		
Ms.860 (401)						○			◎		
Ms.5191						○	○		○		
Ms.Fr.131						○			○		
Ms.Royal 18DVII						○			○		
Ms.Bodley265						○			○		
Ms.5192						○				◎	
Ms.Fr.127			○	○		○				○	3つ
Ms.Fr.132			○	○	○				○		
Ms.G.35				○		○	○	◎			
Ms.Fr.230	○			○							2つ
Ms.208	○					○					
Ms.Add 35321	○					○					
Ms.Harley 621	○					○	○				
Ms.Add.11696	○					○			○		

- * Ms. Gall. 6においては、とびらの絵 (folio 4) から、杭に縛られている女性が運命の女神であると特定でき、Ms.860においては、細密画に記された文字情報から、杭に縛られている女性が運命の女神であると特定できるので、女性の欄に◎を付した。
- * Ms.G.35においては、細密画に記された文字情報から、杭に縛られている男性が悪運であると特定できるので、男性の欄に◎を付した。
- * Ms.5192においては、杭に貼られた銘帯にmalheurと記され、悪運と特定できるので、銘帯の欄に◎を付した。
- * 網掛けされた写本は、2.2の分析から、物語が読まれる前に、その絵が「運命の女神と貧乏女神の争い」であると読み手に認識されることを示したものである。

3. テクストの記述と細密画のかかわり

テキストの記述と33の写本に出る細密画の関係を分析するに当たり、リドゲイト写本Ms. HM 268の細密画で行ったように、テキストの「物語」を読み、画像の構成要素が特定されていることが前提条件となる。即ち、2節で述べた構成要素の分析のなかでは、「運命の女神と貧乏女神の争い」とさえ読み手に理解されない細密画もあったが、ここでは、細密画は双方の争いであり、貧乏女神が勝ち、運命の女神が負け、悪運が杭に縛られるという内容であることを読み手が理解していることが前提である。

では、1節で述べたテキストの構成要素と細密画のかかわりについて検討しよう。

貧乏女神の衣装について言えば、「百の穴がある」を「複数の穴がある」とすると、33例のうち19例が該当する。「穴が一つもない」ものが9例あり、このうち、継ぎ接ぎのあるものが2例 (Fr. 230; Harley 621), 運命の女神の衣装と色彩的に対照をなすものが5例 (96. MR. 17は薄紫; Fr. 127は赤; Fr. 130は青; Fr. 132は薄紫; Add. 11696は黒), 右太腿まで裂けているものが1例 (Royal 20 C IV), 下着のような汚れたものが1例 (Fr. 190) である。「穴が一つしかない」ものが4例あり、このうち、継ぎ接ぎとの組み合わせが3例 (S. n. 12766; 5193; G. 35), 右太腿まで裂けた衣装との組み合わせが1例 (Fr. 16994) である。Royal 14 E Vにおいては、上着に色取り取りの継ぎ接ぎ、ズボンに二つの穴が見られる。

運命の女神の衣装に注目すると、色に関しては「赤紫色」に限定されていない。単色であろうとなかろうと、細密画家たちの創意工夫によって、衣装は色鮮やかな「豪華なドレス」に仕上げられている。取り分け、Ms. Gall. 6では金色なので、貧乏女神との対比から、運命の女神が際立って見える。Ms. Fr. 229, folio 84においては、他のものと異なる特徴が見られる。第六巻の細密画 (folio 221) と同様に、運命の二面性が衣装に反映されて、左半分は継ぎ接ぎの檻褌である。

出会いの場面は、「三つ又の道」と「地面に座っている貧乏女神」が重要な要素となる。この二つの要素を含んでいる細密画は33例のうち2例 (Rosenwald No. 427; Fr. 132) あるが、双方とも、貧乏女神が運命の女神に人差し指を向けているので、「口論」の場面も兼ねた構図である。取り分け、Rosenwald No. 427において、二人が運命の女神に随行している点には見られない特徴である。これは前述 (p.27) の「大勢の侍女をお持ちですが」(grant troppeau de chambriere…) と関連付けられよう。また、Ms. Fr. 127は「地面に座っている貧乏女神」の要素と運命の女神の手の仕草から、前述の2例と同様に、「出会い」と「口論の場面」を兼ねた構図である。

Ms. Fr. 130は「三つ又の道」と「地面に座っている貧乏女神」の要素が無いけれども、場面構成が一つしかないので、「出会い」に分類したが、運命の女神と貧乏女神の争いを説明した画像とするには腑に落ちない構図でもある。大きな車輪を右手に携えた運命の女神の前を無視して通り過ぎる男性は巡礼者なので、ことによると、細密画の下の“Pelerins et autres

voyageurs”（巡礼者たちと他の旅行者たち）の記述と関連付けられただけかもしれない。

口論の場面は双方の指と手の仕草が重要な要素となる。この要素を含んでいる細密画は出会いの場面を兼ねた3例のほかに4例（Fr. 230; Fr. 16995; M. 342; G. 35）ある。この中でMs. Fr. 16995は場面構成が一つしかなく、草原においての白髪の貧乏神と運命の女神の「言い争い」に焦点が絞られている。Ms. Fr. 230は場面構成が二つであるが、建物の一室において運命の女神と貧乏女神が言い争っているの、アンダルス先生がボッカッチョに講義している様子に力点が置かれていると言えるだろう。Ms. M. 342は運命の女神が立ち上がった貧乏女神に指を差して口論し、その後、平坦な地面で格闘して劣勢に陥る二つの場面構成であるが、中央に位置する口論の場面の方に力点が置かれている。Ms. G. 35においては、口論は三つの場面構成の一つであるが、他の7つの細密画と異なり、運命の女神が左手を貧乏女神の肩に置いて今にも争おうとしている構図を取っている。

格闘の場面には5つの寓意要素があるが、細密画家たちは「運命の女神は空中で回され放り投げられる」と「運命の女神は貧乏女神の頭に手を置いて攻撃を開始する」を画像の構図として着目していない。前者は1例もないし、後者はMs. Gall. 6だけである。「貧乏女神は運命の女神を両腕でしっかりと握る」、即ち、「四つに組み合わせる」構図は8例（Fr. 190; Fr. 229; Royal 14 E V; S. n. 12766; 5193; Fr. 226; 96. MR. 17; Fr. 132）認められるが、最初の3つは、「出会い」「口論」「条件」の構図が無く、平原において四つに組んだ二人だけに焦点があてられているので、物語を説明する画像としては物足りなさがある。特に、Ms. Fr. 190においては、Povertyの性別と衣装がテキストの記述とは異なることも考慮すると、その細密画家は全く物語の内容を無視し、「争い」という構図の型を受動的に模倣してあてがっていると考えられても仕方がない。¹⁶次の4つは悪運が杭に縛られるという「条件」が加味されているので、この細密画家たちは物語を理解した上で画像を描いたことになる。最後のMs. Fr. 132【図2】は「出会い」「口論」「条件」も構図に含まれており、物語を最も忠実に説明している細密画の一つである。取り分け、四つに組み合わせる二人は前方中央に描かれているので、「格闘」の場面に一番力点が置かれているようである。

格闘の場面で一番多い構図は、貧乏女神が地面に倒れた運命の女神に対して膝で圧迫しているものであり、33例のうち15例見られる。しかしながら、腹部への圧迫が12例（5192; Fr. 127; Fr. 131; Fr. 233; Fr. 597; Fr. 16994; Fr. 191; Hunter 208; Add. 11696; Harley 621; Royal 20 C IV; G. 35）と多く、テキストの記述のように胸部への圧迫と思われるものは3例（860; 371; M. 342）だけである。また、貧乏女神ではなく貧乏神が運命の女神の下半身を踏みつけて地面に押さえ付けようとしているMs. 5191, Ms. Fr. 131, Ms. Royal 18 D VII, Ms. Bodley 265および地面に倒れた運命の女神の腹部を右足で押さえ付けているMs. 1440は、細密画の分類上、「格闘」の場面に属するが、テキストの記述との結びつきは緩やかである。

「貧乏女神が運命の女神の喉元を締め付ける」行為は運命の女神の胸部もしくは腹部を膝で圧迫する行為と連動している。8例 (Fr. 597; Fr. 191; Fr. 233; Fr. 16994; Hunter 371; Harley 621; Royal 20 C IV; G. 35) 認められるが、テキストの記述どおりに足を使っているのは最初の2つだけある。特に、Fr. 191においては、右手で髪の毛を引っ張り、右足の裏によって運命の女神の喉元を締め上げているので、テキストの記述以上に争いに凄みを感じられる。残りの6つは手を使っているため、テキストの記述との結びつきは緩やかである。どちらかと言えば、この構図は『王侯の没落』写本の記述のほうに関連したものである。¹⁷

掟(条件)の場面は、「悪運が杭に縛られている」ことが重要な要素で、物語の根幹である。この要素を含んでいる細密画は10例 (S. n. 12766; 5193; Fr. 226; 96. MR. 17; Fr. 16994; Royal 20 C IV; Fr. 597; Fr. 191; Hunter 371; G. 35) ある。最初の4つの共通点は四つに組み合った二人の傍らに悪運が杭に縛られていること、次の2つの共通点は貧乏女神によって運命の女神が腹部を圧迫され喉元を手で締められている傍らに悪運が杭に縛られていることである。残りの4つの共通点は運命の女神によって悪運が縛られていることである。取り分け、Ms. Fr. 597において、運命の女神が争いに負けて悪運を杭に縛っているにもかかわらず、まだ二つの顔を持っている点は頂けない。

運命の女神自身が貧乏女神によって杭に縛られる構図も8例 (860; 5191; Fr. 131; Fr. 132; Gall. 6; Add. 11696; Royal 18 D VII; Bodley 265) と多い。この構図は、絵画的見地から勝敗の行方を理解しやすいが、テキストの記述との関わりから言えば、「運命の女神から半分の支配権を奪うために悪運を杭に縛る」という貧乏女神が運命の女神に課した条件が全く考慮されていないことになる。そもそも運命の女神から半分の支配権を奪うことは何を意味するのだろうか。半分の支配権を奪うということは、運命の車輪が止まればもはや運命の車輪ではなくなるというボエティウスの理論¹⁸と同様に、運命の女神がもはや運命の女神ではなくなることを暗示し、ボッカッチョが考える運命の女神抹殺論の中核である。従って、運命の女神自身を縛る構図を取った細密画家たちはこの理論を理解していたようには思えない。

その他、悪運は杭に縛られていないが、悪運の銘帯が杭に封印されている2例 (5192; Fr. 127) は、細密画家の工夫が感じられ、注目に値する。

以上の分析からテキストの記述と細密画のかかわりが明確になるように図で表すと次のようになる。

構成要素 写本	Poverty の衣装 1	出会い		口論	格闘 その場所					条件 5	
		その場所			平坦な 大地	4 a	4 b	4 c	4 d		4 e
		三つ又 の公道	2	3							
Ms.S.n.12766	△		×	×	○	×	○	×	×	×	○
Ms.860 (401)	○		×	×	○	×	×	×	○	×	△
Ms.5191	○		×	×	○	×	×	×	△	×	△
Ms.5192	○		×	×	×	×	×	×	△	×	△
Ms.5193	△		×	×	○	×	○	×	×	×	○
Ms.Fr.127	×	×	△	△	○	×	×	×	△	×	△
Ms.Fr.130	×	×	△	×	—	×	×	×	×	×	×
Ms.Fr.131	○		×	×	○	×	×	×	△	×	△
Ms.Fr.132	×	○	○	△	◎	×	○	×	×	×	△
Ms.Fr.226	○		×	×	○	×	○	×	×	×	○
Ms.Fr.229	○		×	×	○	×	○	×	×	×	×
Ms.Fr.230	×	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×
Ms.Fr.233	○		×	×	◎	×	×	×	△	△	×
Ms.Fr.597	○		×	×	◎	×	×	×	△	○	○
Ms.Fr.16994	△		×	×	○	×	×	×	△	△	○
Ms.Fr.16995	○	×	×	○	—	×	×	×	×	×	×
Ms.1440	○		×	×	○	×	×	×	△	×	×
Ms.Gall.6	○		×	×	○	○	×	×	×	×	△
Ms.Fr.190	×		×	×	○	×	○	×	×	×	×
Ms.Fr.191	○		×	×	○	×	×	×	△	○	○
Ms.Hunter 208	○		×	×	○	×	×	×	△	×	×
Ms.Hunter 371	○		×	×	◎	×	×	×	○	△	○
Ms.Add.11696	×		×	×	○	×	×	×	△	×	△
Ms.Add.35321	○		×	×	×	×	×	×	△	×	×
Ms.Harley 621	×		×	×	○	×	×	×	△	△	×
Ms.Royal 14 E V	△		×	×	○	×	○	×	×	×	×
Ms.Royal 18 D VII	○		×	×	○	×	×	×	△	×	△
Ms.Royal 20 C IV	×		×	×	○	×	×	×	△	△	○
Ms.Bodley 265	○		×	×	○	×	×	×	△	×	△
96.MR.17	×		×	×	○	×	○	×	×	×	○
Ms.G.35	△	×	×	○	○	×	×	×	△	△	○
Ms.M.342	○	△	×	○	○	×	×	×	○	×	×
Rosenwald No.427	○	○	○	△	—	×	×	×	×	×	×

注：1～5の数字の内容は1節（p.27）を参照

- * 貧乏女神の衣装において、穴が一つしか見られないものには△を付した。
- * 出会いと口論の場面があるが、その場面が三つ又の公道でないものには×を付け、十字路のものには△を付した。
- * 出会いの場面があるが、構成要素2に合致しない場合は△を付した。
- * 口論の場面はあるが、構成要素3に合致しない場合は△を付した。
- * 格闘の場所が「平坦な大地」であり、「三つ又の公道」も画像の中に見られるものには◎を付した。
- * 格闘の場所において、貧乏女神が膝で圧迫する部分が胸部でなく腹部のものには4 dの欄に△を付した。
- * 格闘の場面において、貧乏女神が「足」ではなく「手」で運命の女神の喉元を締めつけているものには4 eの欄に△を付した。
- * 掟（条件）において、運命の女神自身が貧乏女神によって縛られているものには5の欄に△を付した。また、「悪運」と記された銘帯が運命の女神によって杭に貼られるMs.5192とMs.Fr.127にも△を付した。

4. アンダルス先生の講義場面について

筆者は第1章1節の出だしでリドゲイト写本を取り上げ、運命の女神と満足貧乏の争いの物語は、ボッカッチョがナポリの学校に通っていた頃、天文学者のアンダルス先生が「王侯の没落の原因は、運命の女神の作用ではなく、己自身の罪や自堕落な生活による」ことを門下生に説くために持ち出した講話であると述べた。では、何故第2章1節でこの記述について触なかったのか。釈明すれば、EETS版(E.S.124)の編者Henry Bergenが、『王侯の没落』第三巻162行目から203行目に相当する箇所¹⁹の注釈として、中世フランス語訳ではなく原典を引用していたからである。

DVM Igitur iuuenis neapolim olim apud insignem adque venerabilem virum Andalonem nigrum genuensem caelorum motus & syderum eo docente perciperem: inter legendum die vna verbum occurrit huiusmodi. Non incusanda sydera sunt. Quum sibi infortunium oppressus quaesierit. Quod audiens festius homo/ quamquam longaeus/ hilari vultu inquit. Hoc profecto lepida fabella & antiquissima probatum est. Quam a quibusdam egregiis nobilitate viris auditoribus suis & a me exoratus vt diceret/ quum placidi & flexibilis esset ingenii/ confestim disertio sermone sic inquit.¹⁹

(大意) 私(=ボッカッチョ)は若い頃、ナポリの町で、有名なジェノア出身のアンダルム・ド・ニグロの指導のもとで天と星の運行について学びました。ある日、講義のなかでこのような格言に出くわしました。「たとえ不意に不幸に襲われても誰も星回りを非難してはならない。」すると、ご高齢であるが、従順で機知に富んだ先生は「確かに、そのことは昔の素晴らしい寓話によって立証されている。」と微笑みながら言いました。そのことを門下生たちと私に語るように求められると、先生は直ぐに明瞭な言葉で語り出しました。

この記述によって、ボッカッチョの原典『名士列伝』にはアンダルス先生の講義場面があることを確認できる。P.M. Gathercoleが「ロラン・ド・プルミエフェによる中世フランス語散文訳初版は原文に忠実で、第二版は拡張されて初版よりは忠実でない」²⁰と指摘しているが、だからといって、上記に相当する記述があるかどうか確認できない現時点で、5枚の細密画(MS. Fr.230, Ms. 208, Ms. Add. 35321, Ms. Harley 621, Ms. Add. 11696)と中世フランス語テキストの記述との関わりについて述べるには推測の域を出ないので、ここでは触れず、今後の課題としたい。

まとめ

今回、『王侯の没落』写本 (The Huntington Library Ms. HM 268) を起点として、中世フランス語訳の『名士列伝』写本群における33枚の細密画を調査対象とし、テキストの記述と細密画の関わりについて詳細に調べた。この比較考察によって、写本の読み手に運命の女神と貧乏女神の争いという「物語」を前もって理解させるために、細密画家たちが「アンダルス先生の講話」「貧乏女神の衣装」「出会い」「口論」「格闘」「掟 (条件)」の中からどのような寓意要素を構図の拠り所として取捨選択し、どのような創意工夫を凝らしているかを明らかにすることができたと思う。残念ながら、すべての寓意要素を取り込んだ細密画はなかった。Millard Meissが指摘したように、²¹ Povertyは女性であるのに、テキストの記述に従うことなく趣向を凝らして男性に設定され、また細密画を魅力的にするために、細密画家たちが彼女に穴のあいた衣装を纏わせていない場合があることも事実であった。この調査の結論は次のようなことになる。

第三巻の始まりにある細密画は写本の読み手に運命の女神と貧乏女神の争いという「物語」を前もって理解させるためのものであるとすれば、争いの対象者が特定されない大半の細密画はその役割を十分に果たしているとは言えない。このような細密画は写本の読み手にとって読書中での一次休息の目印となるとともに、次にどのような内容が始まるのかという予告と成り得ることから、構成要素と場面構成の数は読み手の予備知識の度合いに大きな影響を与える。²²

「物語」を読む前に争いの対象者を一部特定できるものがあった。それは運命の車輪が構図として描かれている場合である。運命の車輪は人間の諸事の無常と不安のシンボルで、中世末期まで表現され、王侯貴族だけでなく庶民階級まで浸透していた。²³ この指摘に信頼を置けば、Ms. Gall. 6, Ms. 1440は豪華な衣装を纏った運命の女神と誰かとの争いを示し、運命の女神が劣勢であることは難なく認識されたことだろう。取り分け、Ms. Gall. 6は運命の女神自身が相手によって杭に縛られている構図なので、彼女が敗者になったことまで前もって認識されたはずである。

「物語」を読む前に争いの対象者を特定できる、即ち、細密画が運命の女神と貧乏女神の争いと認識されるものがあった。それは細密画の直ぐ下に「第三巻の第一章は運命の女神と貧乏女神の争いを含む」という記述がある、又は、細密画のなかに人物の文字が記載されている場合である。これに該当するものは15例あった。

Rosenwald No. 427	Ms. Fr. 16995	Ms. M 342	Ms. Fr. 233
96 MR. 17	Ms. Fr. 226	Ms. Fr. 16994	Ms. Fr. 191
Ms. Royal 20 C IV	Ms. 860	Ms. Fr. 131	Ms. Royal 18 D VII
Ms. Bodley 265	Ms. G. 35	Ms. Fr. 230	

これらの細密画のなかで、衣装の対照性、王冠の有無、車輪の存在に着目した場合、運命の女

神の実体を熟知していた読み手は、どちらが運命の女神でどちらが貧乏女神かを識別することなど造作もなかったことだろう。例えば、Ms. Fr. 131, Ms. Royal 18 D VII, Ms. Bodley 265の3枚は、王冠の存在によって運命の女神が特定される。彼女自身が杭に縛られているので、読み手は争いの「物語」が貧乏女神の勝利で終わることまで前もって認識できていたことだろう。²⁴Ms. Fr. 191は衣装の対照性と車輪によって運命の女神が特定化される。彼女は格闘において劣勢であるが、彼女がある男性を杭に縛っているため、彼女が勝者のように誤解されたかもしれない。

上記のほかに、「物語」を読む前に、細密画が運命の女神と貧乏女神の争いと認識されるものがあった。それは細密画のなかに人物の文字が記載されている場合である。これに該当するものは5例あった。

Rosenwald No. 427 Ms. Fr. 233 Ms. 860 Ms. G. 35
Ms. Fr. 230

この5例においては、構成要素と場面構成の数の相違から、争いに対する読み手の認識度合いは異なる。Rosenwald No. 427とMs. Fr. 230での双方の争いは単なる「言い争い」としか推測されない。Ms. Fr. 233での争いは貧乏女神が優勢に進めると推測され、Ms. 860での争いは貧乏女神の勝利で終わることまで認識される。取り分け、Ms. G. 35は背景に力点が置かれているものの、三つの場面（出会いと口論、格闘、条件）で構成されているので、細密画を見ただけで、「物語」の内容を読まなくても理解されたことだろう。

細密画家たちはテキストの記述から寓意要素を取捨選択し、彼らの好みとその時代の慣習に従って画像を生成している。²⁵写本の読み手の視点から言えば、第三巻の記述に従って「悪運」が運命の女神によって杭に縛られている、あるいは、既に「悪運」が杭に縛られているという細密画の構図においては、「物語」を読む前に、その意味を正確に理解するのは難しい。言い換えると、画像が前もって運命の女神と貧乏女神の争いを示したものと分かる場合は、運命の女神自身が縛られているほうが読み手にとって「物語」の結論を認識しやすいということである。

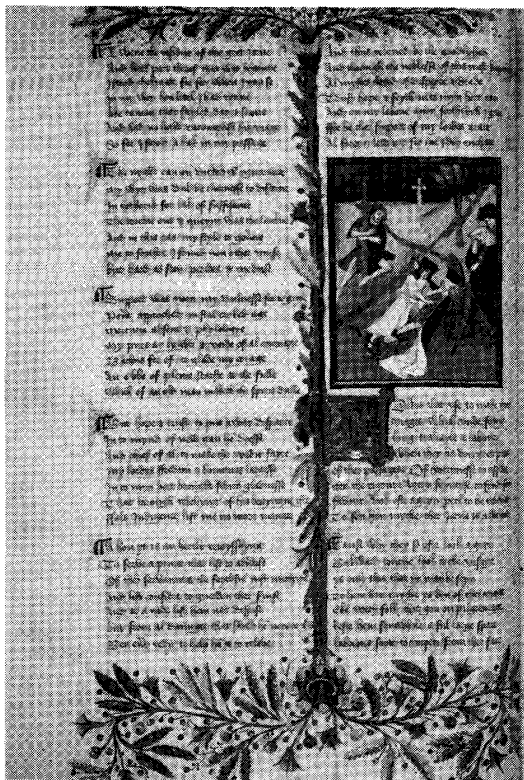
以上のような見地から判断すると、Ms. Fr. 131【図3】、Ms. Royal 18 D VII【図4】、Ms. 860【図5】、Ms. G.35【図6】、Ms. Bodley 265の5枚は、「物語」を読み進めるにつれて、構図の不十分さと記述とのあいだのずれが鮮明になってくるが、「物語」を読む前の段階では「視覚言語」の役割を十分に果たしている細密画と言える。

注

1. 拙稿「『名士列伝』写本群における運命の記述と細密画—ボッカッチョの面前に出現した運命の女神の場合」、『鹿児島県立短期大学紀要』第47号（1996）、51-71.

2. 黒瀬保編著『中世ヨーロッパ写本における運命の女神図像集』（三省堂、1977年）。
3. 轟義昭編著『中世ヨーロッパ写本における運命の女神図像集：補遺』（成美堂、2000年）。
4. Henry Bergen, ed. *Lydgate's Fall of Princes Part II* (1924; rpt. London, The Early English Text Society, 1967), pp. 334-348. 以後、『王侯の没落』からの引用はすべてこの版による。
5. 拙稿「(試訳)『王侯の没落』第三巻 運命の女神と満足貧乏の争いの場面」、『鹿児島県立短期大学紀要』第46号(1995), 1-17.
6. 例えば, Philadelphia, Rosenbach Museum and Library Ms. 439/16, folio 146^o, Paris, Bibliothèque Saint-Geneviève Ms. 1128, folio 196を参照。
7. *Lydgate's Fall of Princes Part II*, p. 334.
8. *Lydgate's Fall of Princes Part II*, p. 346.
9. Henry Bergen, ed. *Lydgate's Fall of Princes Part IV* (1924; rpt. London, The Early English Text Society, 1967), p. 182. 以後, ロラン・ド・プルミエフェによって中世フランス語に翻訳された『名士列伝』からの引用はすべてこの版による。
10. *Ibid.*, p. 184.
11. *Ibid.*, p. 185.
12. *Ibid.*, p. 246: "fortune en son corps auoit cent mains et autretant de bras..."
13. *Ibid.*, p. 183.
14. *Ibid.*, p. 182.
15. *Ibid.*, p. 181.
16. Cf. Millard Meiss, *French Painting in the Time of Jean de Berry: The Limbourgs and Their Contemporaries* (The Pierpont Morgan Library, 1974), p. 17: "The first illustrator of this contest...shows the two figures locked in struggle, much like traditional biblical illustrations of Jacob wrestling with an angel."
17. *Lydgate's Fall of Princes Part II*, p. 345.
 Vpon whom Pouert in haste is ronne,
 And streyned hir with so gret duresse, (591-592)
18. Boethius, *The Consolation of Philosophy* (Loeb Classical Library), II. pr. 1 (p. 179): "Will you really try to stop the whirl of her turning wheel? Why, you are the biggest fool alive—if it once stop, it ceases to be the wheel of fortune."
19. *Lydgate's Fall of Princes Part IV*, pp. 181-182.
20. Patricia M. Gathercole, "Two Old French Translations of Boccaccio's *De Casibus Virorum Illustrium*," *Modern Language Quarterly*, XVII (1956), 303, 306.
21. Millard Meiss, *op. cit.*, p. 17.

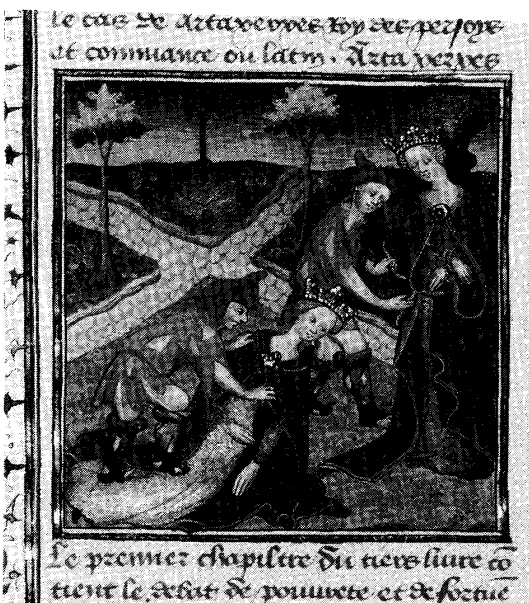
22. 例えば, London, British Library, Ms. Royal 14 E V, f. 113^oは大勢の見物人がいる平原において男性と女性が四つに組んでいる構図で, Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 229, f. 84は草原において二人が四つに組み合っている構図で, Paris, Bibliothèque de l'Arsenal, Ms. 5193, f. 88は草原において女性と女王が四つに組んでいる場面と裸体で顎髭のある男性が両手を杭に縛られて地面に座っている場面から構成された構図で, Paris, Bibliothèque Nationale, Ms. Fr. 127, f. 71は曲がりくねった道において貴婦人が地面に座っていた女性に出会い, 左人差し指を向けて口論する場面, 女性が地面に倒れた貴婦人の腹部を右膝で圧迫している場面, 貴婦人が, 女性の前で, 「悪運」を意味する文字が記された銘帯を二本の杭に貼っている場面から構成されている構図である。この4例を比較すると, 構成要素と場面構成の数によって読み手の予備知識の度合いが異なることは理解できるだろう。
23. H. R. Patch, *The Goddess Fortuna in Mediaeval Literature* (1927; rpt. New York, Octagon Books, INC., 1967), p. 33; 柳宗玄・中森義宗編『キリスト教美術図典』(吉川弘文館, 1990), p. 198
24. Paris, Bibliothèque de l'Arsenal, Ms. 5191, f. 53^oはParis, Bibliothèque Nationale Ms. Fr.131, London, British Library Ms. Royal 18 D VII, Oxford, Bodleian Library Ms. Bodley 265の3枚と同じ構図であるが, 細密画の下に「第三巻の第一章は運命の女神と貧乏女神の争いを含む」という記述がないために, 「物語」を読み進めないと, 運命の女神と満足貧乏の争いとは理解されない。
25. Cf. Millard Meiss, *op. cit.*, p. 18.



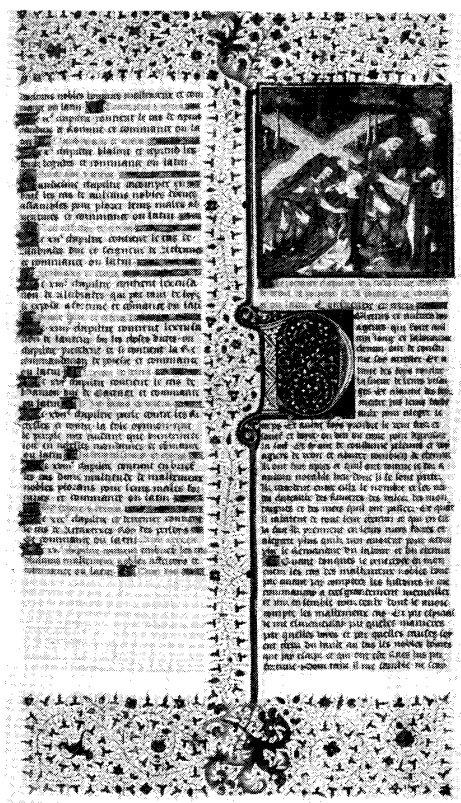
【图 1】 San Marino (California),
Huntington Library
Ms. HM 268, f. 43^v



【图 2】 Paris, Bibliothèque Nationale
Ms. Fr. 132, f. 42^v



【图 3】 Paris, Bibliothèque Nationale
Ms. Fr. 131, f. 71^v



【图 4】 London, British Library
Ms. Royal 18 D VII, f. 52

